



越

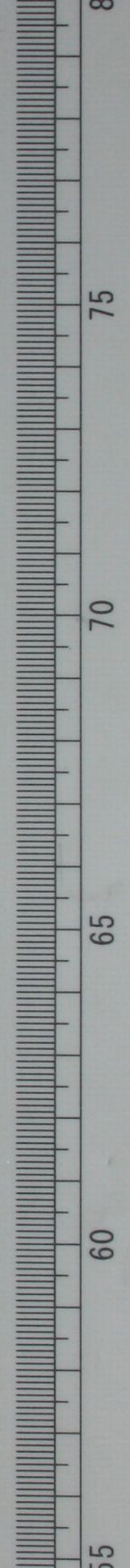
旦

明和三吐月哉旦

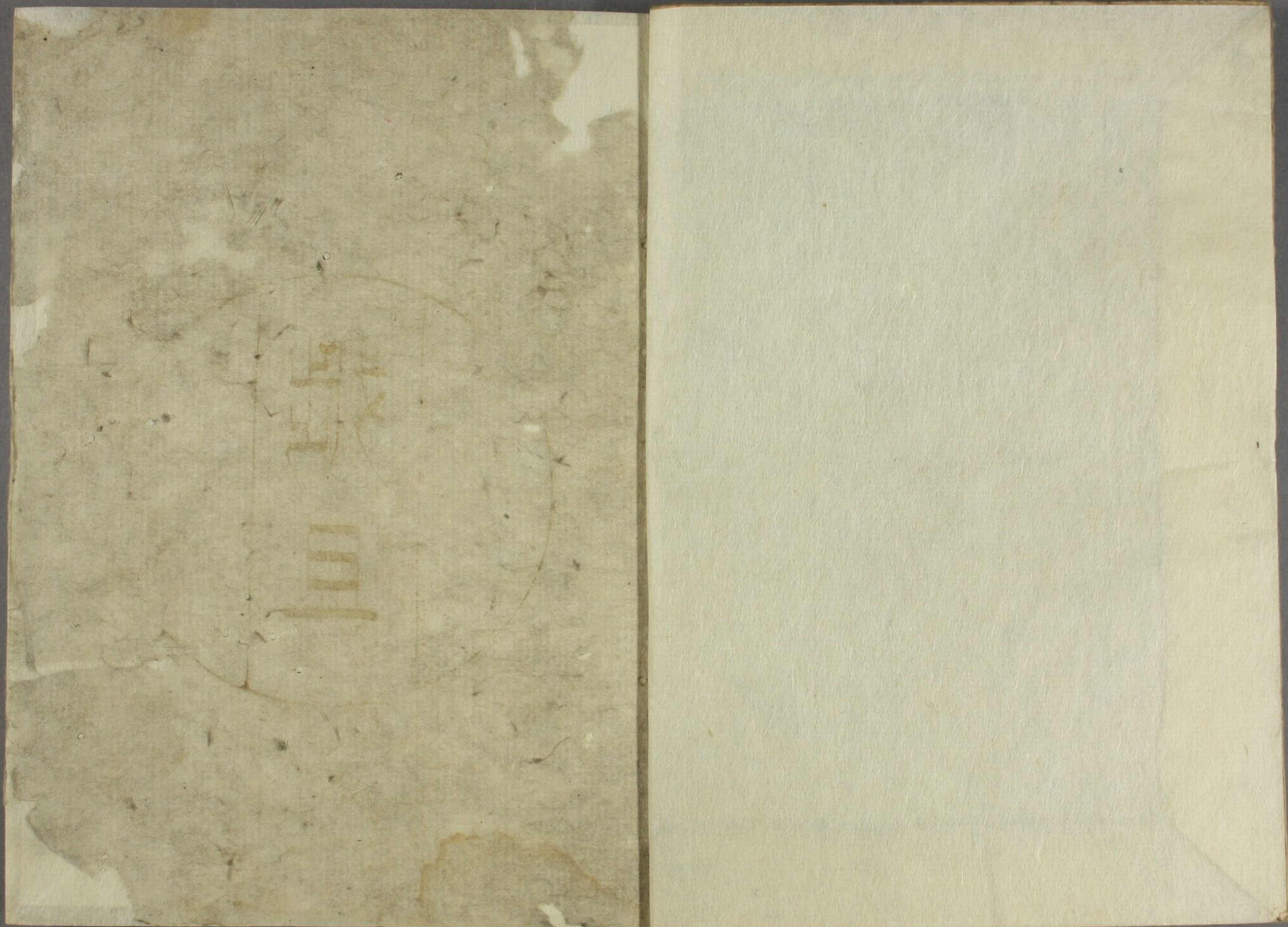
中村俊定文庫

文庫 18

423











明和丙戌

社中の句を撰ぶ家  
の情とせし師叟の命ある  
ふと東郊よ春をむす

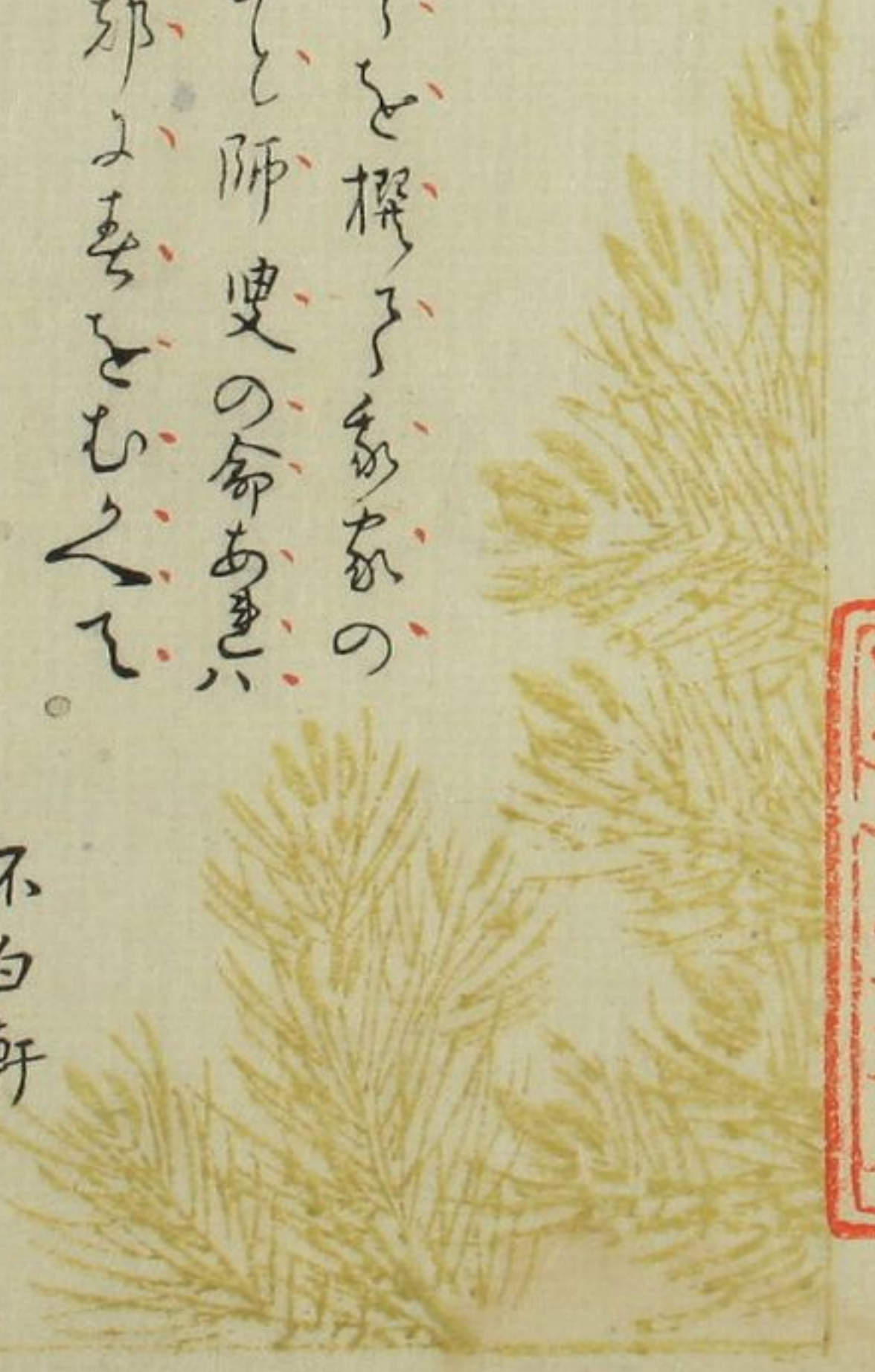
夕人独りまはる

さ  
ふ  
う  
山  
鳥



不白軒

吐  
月





元旦

羽子のうねりかきほくそひより

けいせん梅ふしの松陰

梅投る新波男は舞う

石中堂

天府

蓼太

周竹

三始

香をよみく梅よ初りくくつ草花湯

麻上下乃いろもき頂

梅既芳雅如喜よつてくろく

寒蓼堂

婆心

蓼太

六窓



蒼天

并春興句坐任到来

桃鏡  
 北市  
 菊堂  
 軍中  
 祇什  
 祇之  
 北魚  
 魚攸

あつあつの先河  
 年玉の扇も  
 つねよや  
 あつあつ  
 花もみら  
 翠花言  
 色井や  
 長果さ

夜くもふ  
 春よ  
 波初  
 春の  
 山  
 各頭島  
 嘉定  
 連中

是物  
 棧石  
 眠我  
 白信  
 乳峰

小くすね  
 まさや  
 ニス  
 梅さ  
 乞事  
 更始  
 雄高  
 序  
 太阿

習齊  
 楚雪



山崎の波乃上中和孫の島  
 女 琴糸  
 白之  
 復雪  
 方水  
 穿石  
 月扇  
 孤峯  
 三峰  
 出明

初空や磨あまの珠崎  
 麦車  
 翁島くも 汐菜もすくも  
 完幸  
 脱捨く赤代の青なり 甲一島  
 丘車  
 島もく好澄よかききかみ餅  
 近水  
 海秀  
 鷹島や雄尾もくくくく  
 魚行  
 いせーまも 龍波もおふし 木の香  
 魚行  
 此價千貫 一まそを乃こる  
 柁夫  
 春の山や ときよの二子島  
 臘扇  
 山くく 波おのやねよる島  
 兔波



月流  
 紫丈  
 如文  
 山曉  
 琴松女  
 白花  
 四友  
 涼龜少年  
 绿水

陶家  
 水長  
 李山  
 月砂  
 壺月  
 巴山  
 兔耳  
 橙司

東君  
 上毛言平連中



七種やうやまのまきくもれ  
是牛 南来

至春

奥州本宮古路の巻連中

春のやまのくつろぎの根 秋夫  
穴引やいつき運の枝くろ 北山  
等よテ納豆の白くろ中 雁足  
穴一とくろくろの柿くろ 百年  
望提くろくろくろの松 長江  
やくろくろの底ぬきくろくろ 百川

春のやまのまきくもれの花 万象  
蝶のくろくろくろの葉と愛女くろ 為く  
竹のくろくろくろのまきくもれ 竹堂  
春のやまのまきくもれの人乃ふくろ 青松

芳歳

お老のまきくもれ

東都

ひよつとくろくろくろのまきくもれ 胤腹  
今くろくろくろくろのまきくもれ 来光  
むくろくろくろくろのまきくもれ 黙我  
七つ子よかろくろくろのまきくもれ 和孝



仲るの心よ多ねや老のこゝろ 友鷗  
種御ふゆきまきし神のまき 白翅  
響や木陰は人の伸ちるみ 上毛崎 雨什  
田上踏のまじき廣し初日歌 株太

初正 奥州二本松十二楼連中

出る日は笑一柱や四方并 一聲  
山の井もはくくみゆり初かき 春鳥  
ひと昔の先よらんこやまの鳥 古川  
結ねるまは是へと福玉科 里泉

頂よこれねあけり留すのちね 市井

彩霞 奥州栗析養阜壺連中

飛く鳥家の要やかみもち 可貞  
うつろひぬまけ始や福玉科 田車  
下駄の齒もかきさる日何梅茶 秀色  
櫻もあけ了る糸の帯は 射牛

早春

富士六つね先よ東ハ初の日 鳳宿  
うくしやまねぬと親を之の物 女 蘭室

東都



くらさひ華もよもひの身  
蘭陵  
限りふ松舟もよもひの子代の身  
桃流

篋歌

京都

初めお出人もなほよもひの身  
花沙  
くつ路やふきよもよもひの身  
廉文  
よふくもよもひの身  
初かよも  
歩月  
月志のふきよもよもひの身  
初かよも  
仙衣

初陽

東都

初陽く人さつりあつりさつり  
葉路

松とく男の春よもひの身  
留屋  
まのひのよもひの身  
竿魁  
松舟帆の風もよもひの身  
梅人  
象のよもひの身  
五全

改正

東都鎧渡連

まねの梅よりさや桃を郎  
百貞  
まねの梅よりさや桃を郎  
西流  
満くせぬ人の歩くや玉の身  
文母  
初陽を先耳もよもひの身  
沙長



春の山やうらもけい海老家  
 橋奴  
 蝶もあけ出るとけや玉の春  
 州風  
 明てとけけ花並木や富士の春  
 習幸  
 福ももく一秋の田乃きき  
 巴調  
 年五や祿人きくぬあまき  
 茶餅  
 横雲や江戸のききたよけの春  
 南居  
 研之北境よ向ふききり  
 龜磧  
 孫考の笑歌ききき福玉の春  
 女 百頁 母  
 喰つらや千代の孫いよききり  
 芦水

春も寒も一冬よ正月初唐  
 少年 龜童  
 梅の枝よききき初らけい  
 野州  
 くらひすけ家よの歌や初り歌  
 翠羽

良時

長門萩連中

春の色初てきききとけの春  
 花上  
 大福の湯もあまのてきき  
 未中  
 張りてぬ侍もけい初り  
 荷翠  
 春もよききききや松の陰  
 可竹  
 唐種のもよききききて梅の春  
 親 雪下



花のほろけやうらやま  
さきくもあそびやうらやま  
吉幸の歌又うらやま  
野盾

三朝

上品春園連中

えりや神の代より花飾  
万草やをよま冥のぬつく  
初よりやさすふふ岩戸山  
まらぬ乃國常之や福妻  
つくも神の末葉やにま飾  
閑山  
雪丸  
米屋  
朗舟  
雪宇

日神田

東平のまやほろけ  
大江

初霞

東都女

君、代や風よまそひ  
あそびよと地又うらやま  
野菊  
美知

初光

上総市引連中

梅も笑やあそび  
一不二や春より花  
風の事枝とハ  
あそびの連  
砂川  
柳花  
可徳  
あそび



高きとふくゆるやうの處 風隨  
摘みきて海士の茶葉やま川貝 山紫

好文

東郡

静きや發給葉も浦のくさ 楚水  
手金の流口吹くうふく香州 吏仙  
御やき氣入る初まき 桂山  
美茶やゆるの色と初まき 新鉤  
士茶も一字ゆきて茶の香 茶羽  
梅く食よひしく黒戸や初まき 郎尾

色かくぬきおこしや松の香 路遊  
吹流く不二とくまき初まき 連丈  
梅く食の流のゆるて初おる 未到  
云の葉乃身よまき人初まき 松雨

春来

武州川原連中

去つたは花さぬつやうの氣 蓬戸  
新の春く笑やとまき 都門  
茶目もゆるやおのまの門 来扇  
まの葉まきつるりく田子所 風絮



長閑さやおののちの松の上 山夕  
ふしのうと唐蘇子ゆきや四方は春 桃鯉  
よふきのうけりくはるし如かきや 其夕  
実のふき日ハききききぬ初唐 如鶴  
善きや美令淑くと是のいろ 乙時  
山くの衣政おふやくのま 如瞬

春風

武州お伏連中

さつ差や扇のふに乃もえより 乙舟  
星ハいなきまへ流して風の香 巳人

松ハ又きしとくさや神の香 午雲

春水

羽州上、山連

お初や筆の林もむ久乃花 投茶  
重初やそのたしく乃多此あと 六川

春色

上総天神山連

善き子尾盤動くや飾海老 快風  
喰積や友佐の江此ゆ下唱 篋貞  
明て了まをと表紙や初唐 茶亮

青姫

相州戸塚連



上もや記賜 ねごと初ふよみ 儼中  
まよりのま揃えさる福委州 為好  
庭よりよの云初ま青葉の那 蓼坡  
庭よましくまれまるや松飾 素白

玉春

相州中田

吾ひより急不一の風やゆめま  
掃然とまの美しやまのり  
ふるの二字も清くまのり  
自花のまよるまのりまのり  
眞尺  
素木  
和泉  
沙岸  
仙茶

先ふふ紙のまぬやまのり  
まよるまのりまのり  
和まよるまのりまのり  
圓士  
山房  
官沢  
古道

永陽

東都

志つまや海なるまのり  
松よりまのりまのり  
初まや几中の廻も此のまのり  
あまの所代の清や初まのり  
まのりまのりまのり  
南之  
卷耳  
如風  
非童  
女  
美津



念くとき六阿く梅の香女 柔正  
位かへて暮水もく味暗八斗 吏流

霞夜

東都

新しよ云葉もく人く何唐 兎守  
みし時もく物もくふく花は香 沾我  
物中の泣いづきも花葉く何 玉画  
を令のそくふもくやあけの香 如瓶  
くつ雲花袋もくけくあふき香 百示  
初雪や花田もく新ハリ花海 葵駒

枯芦の角くいつく初日乳 四國

春曙

奥州村田大唐窟社中

葉よびく福のふくあふく 得壽  
えりよ阿く脚涙のくかりく 雪頂  
春よ成るりもるく嬉く梅唇 雪嵐  
はくぬもくうよま松や初日泣 普千  
つ春の喜あ系やかきく海を 尺童

松花

各題島

仙臺嘉定廣連中

門松の部島あり十美家 鷺帆



初より風や松吹ふく西<sup>ナ</sup>風島 左柳  
之う島乃うの浦ぬと那の寺 茂山

梅春

仙臺冬至菴

雪をうらむ藩園をふれや松のみ 東鯉  
柳をうらむかきよる餘言を 丈芝  
秋のあけ重とるや藤白 拾紅  
凍ぬや種のをめふふ 拾瓜  
去る魚やぬゆく雪に骨をあり 知昂  
梅、魚や唇恨とる寺と思ふはら 松超

雪や禁うや車と雪うらむ 是非庵 芳角

梅柳

奥州郡山連中

雪をうらむの先へうらむやう本橋 露香  
と初やころのくまきと志のあけ 露滴  
一点の梅れかありやう風の寺 <sup>上毛神田</sup> 順賀  
山々も笑うついでとてふ花の礼 <sup>上総永吉</sup> 涼花  
八重山の夜夜梅あや虫の春 <sup>同法目</sup> 眉山

豆州三島六花菴社中

雪うらむむ形ともるうの梅う那 拾羽



猶おやをぬくんのり遠む  
 舟おとちう忘きそ雪ぬる  
 春柳や四五町先り松の音  
 美州やあつたて流すみね  
 小京女の手紙ゆりて美菜は  
 去り言よんうさくやいの  
 鷺屋うもいやうや梅の露  
 新法師のやうよきんね  
 うさひまねたてしてはる初るは

鳥考  
 連枝  
 竹角  
 尺里  
 嵐扇  
 子計  
 紫雪  
 古限  
 九湖

東都

かつる代の賜はるうさる比取  
 七後よぬわりの改業う那  
 紫雲の茶や幾代のさき石  
 えりやあ代ハを神はあうろ  
 晝初や紫のつとやうと亭  
 初とやうと茶よ初くは海島  
 去り言やあはる細の葉か  
 松井の花と咲うりかきうあさ

完車  
 夜来  
 太丈  
 節菴  
 飛鯨  
 太喬  
 和水  
 五十行



孟よ世の魚もあり福も神一  
 自さの初喜ぬらんいさぬん  
 水やまの井此星如乳  
 江戸よあゝ富士かと娘一の喜  
 聖白小梅のちくや学はく久  
 笑初もや門のまみより  
 雪れ羽をかいて初言うぬ  
 喜<sup>初老</sup>のや念<sup>初老</sup>を花の家一本  
 関守る旅よを鞠や内代の喜  
 春鳥  
 以是  
 石壽  
 柳坡  
 至丸  
 左舌  
 栽松  
 鯉半  
 枝頁

下総連中

澄身ぬ内信下やあ市の喜  
 初もやなく静る子み津  
 初もや岩戸よゆる初も新  
 起上るあゝの花や福喜の神  
 似城の念念恵あゝの喜  
 松風のぬ子よ渡なり内代の喜  
 若美と内中の候乃ち慶の喜  
 初もは静る時やあ甲の喜  
 眠江  
 山奴  
 指雨  
 錦江  
 採吉  
 女  
 ここの  
 旅泊  
 朝可



序ハ緒々四季此初下  
包巾や開けハ早秋加つる  
如柳 唯我

下総白兔園連中

笑へし時を去るや  
雪や目の正月て飛てり  
花子啼て空へたきり柳か  
風陽

上毛牛田連中

慈母百轉りや玉津民  
つゝの之種櫓之や松の香  
扇哉

且宿改

初鶯よ笑ひそえあり山か  
まゝと里々吹て松の香  
とく之や柳より秋房の対  
今江 隣里 竹友

東郡

悠々岩戸祠や神の香  
まゝもや去る季の岸へはか  
つ松や香高なるゆか  
初鶯と翅はくらく素袍か  
春賀 隻尾 祇卜 雁奴 沾慶



えりや可もたしく不可もたせり

百重

駿州富峯下連中

之れ葉の花よふもあつと歌の喜

波光

人別と成ハ老まつづのま

少言

先重乃世のま根やと歌の喜

素琴

黒う代の巻をよまきり福高州

之紫

こゝろえー芳野いつと世の喜

湖音

同清所連中

まゝのふハかきひち中やかき餅

麻介

まゝのやいさゝの約のあー

龜筭

はさ又んハあーも花の初ハ

燕波

同後枝連中

波うらゝまれ初ハのひうらゝ

偽水

床くも笑ひ初あつ福高州

洛川

雪をよそくハ春あり初く

牝二

まゝハ帰るぬ喜ハ後ハ那

一羽

吸あハ玉れ免や男うまれ

吟水

同久能



先き此一福喜を花の葉はしり

蓼舟

樽乃名もきり日本の花乃喜

東都

慎車

鈴澁よふりきつめし初り飛

女

管衛

格あみ松ハのきり初り乳

和星

馬も松や手きり垣のふりつ

其九

買ふや先酒をく神乃喜

吸捧

駿島田連中

又き此一福きりきり

大耳

茶葉や宿くきり山いり

茶来

先じきりきりや舟り初り

陶砂

きりやきりきりきり

自徳

舟のきりきりきり

舟

面ふりきり海を乃不きり

佛海

蓬葉や四海をつたぬきり

枝

初不きりきり白乃きり

尾跡

ハきりきりきりきり

窓

つねやきりきりきり

戸



上



等や五斗の樽餅とのふし  
流耳しおしつるきん一喜おん  
くふすのふ里やふそいふふ

尾城下

也

及古房

八

蕨菜やあふん乃どし時極

東郡

松菴

眼かこのま人もふしつる

越中

雪菊

ゆきよなる木はえもふし梅の世

相州

雪外

中村俊三  
花



